



新藤健一

「見えない戦争」

あなたの隣の
[危険]と[軍事]

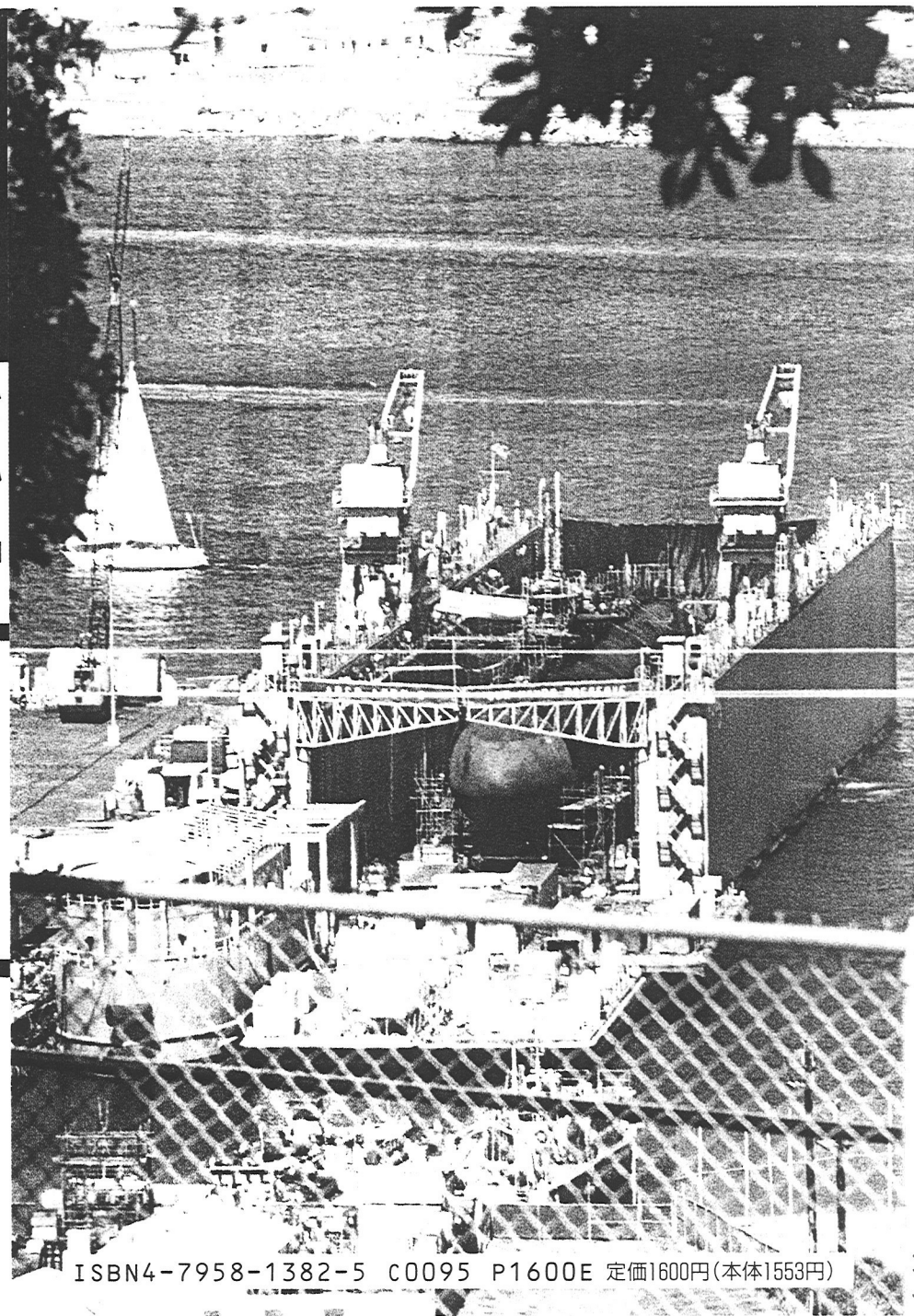
見えない

戦争

あなたの隣の
[危険]と[軍事]

新藤健一

情報センター
出版局



ISBN4-7958-1382-5 C0095 P1600E 定価1600円(本体1553円)

見えない戦争 目次

はじめに 1

① 隠された日本の戦争施設

13

PKO施設部隊はどこから派遣されたか

古墳の間に隠された航空兵学校 14

自衛隊最大の弾薬庫群 17

祝園弾薬支処 20

陸上自衛隊大久保駐屯地 21

立ち退きを迫られるウトロの住民 23

謎のベールに包まれた上瀬谷通信基地

原潜に核指令 26

ちよつとした事件 30

不気味なアンテナと“象のオリ”

依佐美通信所と美保基地

原潜用超長波アンテナ 36

モーター「はくちょう」の監視小屋 37

喜界島のOTH反対運動と地下ダム

レーダー建設計画 44

謎の地下ダム 48

軍事輸送転用施設

『米子鉄道管理局史』が語っていること 51

“離陸”した農道空港 57

トンネル・シエルター・地下壕

地下トンネルと強制労働 59

中国と旧ソ連の核シエルター 62

ペンタゴン地下駅からの報告 64

青函トンネルと軍用列車 65

「日韓トンネル」構想 66

② 日本に「核」はあるのか

検証・在日米軍

71

沖縄・疑惑の弾薬庫

核は日本に持ち込まれていた 72

毒ガス移送作戦 73

米ソに影響を与えた旧日本軍の生体実験 76

拡散した毒ガス兵器 78

撮影禁止だった那覇空港 79

疑惑の上を飛ぶ 80

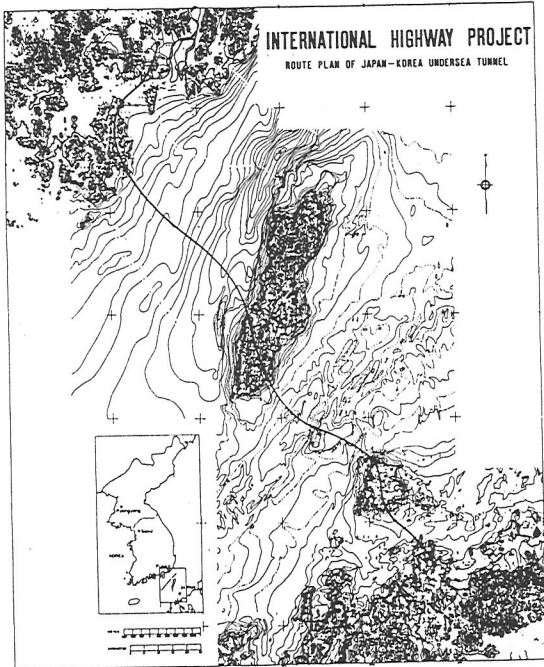
「日韓トンネル」構想

一九八三年五月二十四日、日韓トンネル研究会という名の団体の設立総会が東京のホテルニューオータニで開かれた。この組織は前年に設立された国際ハイウェイ建設事業団の諮問機関として設立され、その呼びかけ人には、佐々保雄北海道大学名誉教授、佐々木忠義前東京水産大学学長、松下正寿元立教大学総長、金山政英元駐韓大使ら、多くの学識経験者が名を連ねていた。中でも佐々保雄氏は、青函トンネル建設にあたって顧問を務めた地質学の専門家だ。

この計画は、八一年一月にソウルで開かれた第一〇回「科学の統一に関する国際会議（ICUS）」において、世界基督教統一神霊協会（統一教会）の教祖・文鮮明氏が唱えたことから始まった。世界反共連盟の主要メンバーでもある文鮮明氏の構想とは、東京とロンドンを海底トンネルとハイウェイで結ぼうという夢のような広大な計画で、日韓海底トンネルはその一部分にあたるという。この会議で文鮮明氏から相談を持ち込まれた京都大学名誉教授の西堀栄三郎氏は、帰国後、

佐々氏に連絡、日韓トンネル構想はただの夢から机上プランへと具体化しはじめた。

総延長一三〇キロ、長さでは青函トンネルの二倍を超えるこの計画は、実のところ、新幹線の基礎となった弾丸列車計画とともに戦前からあった。その構想を一九八〇年によりがえらせたのは大手建設会社のひとつ、大林組であった。この年、同社のPR誌『季刊大林』は「ユーラシア・ドライブウェイ構想」と題する読み物を掲載し、夢の計画を披露した。構想のオリジナリティがどちらにあるのかは定かではないが、大林組から藤田雅弘常務が日韓トンネル研究会の理事に名を連ねて



日韓海底トンネル計画ルートプラン

（国際ハイウェイプロジェクト日韓トンネル研究会、1983年5月発行）

いるところから察すると、両者の関係はかなり以前から出来ていたと考えられる。そして大林組の試算は、二期二〇年、総予算三兆円と見積もっていた。計画に向けた国際ハイウェイ建設事業団による調査は、八二年六月の北九州での地表調査に始まり、八三年の海域部環境調査へとつづき、八四年には壱岐と対馬で、八八年には韓国側の巨済島でのボーリング調査が行なわれた。事業団の活動は中国にも及び、八九年には京丹（北京—丹東）国際ハイウェイ

イ計画準備委員会が設立され、その予備調査なども行なわれた。

同事業団は八六年に日本側の起点の候補地の一つとなっていた佐賀県東松浦郡鎮西町で起工式を行ない、極東開発が斜坑の掘削工事を担当している（この工事、初めは熊谷組と三井建設も参加していたが、九二年現在、約四〇〇メートル進んだ所で中断している）。この工事に投入された資金について、月刊「現代」（九二年一〇月号、講談社発行）でルポライターの松田賢弥氏が明らかにしたところでは、これまで注ぎ込まれた金額は約一〇〇億円、うち九割は統一教会から出されていたということだ。

このような動きとどのように連動しているかは不明だが、九〇年五月に来日した韓国の盧泰愚大統領は日本の国会で、「来る世紀には東京を出発した日本の青年が玄界灘の海底トンネルを通過して、ソウルの親友といっしょに北京とモスクワに、パリとロンドンに、大陸を結び世界をひとつにつなぐ友情に満ちた旅行を楽しむ時代を共に創造しましょう」と演説した。日本側では海部俊樹前首相がその翌年に訪韓した際、盧大統領の提案に賛意を表明。九二年五月には、訪中した竹下登元首相が万里全人代常務委員長との会談でこの構想を披瀝するなど、日韓海底トンネルのプランは政治家の中にもかなり浸透しはじめている。

そして、日韓トンネル研究会会長となった佐々保雄氏もまた日韓の平和の架け橋になると期待に胸をふくらませている。日本山岳会会長も歴任した佐々氏は内村鑑三の最後の弟子と自称するクリスチャンであるようだが、やたらと気になるのは、文鮮明氏を教祖と仰ぎ、合同結婚式や靈感商法で話題になった統一教会の存在である。もともと国際ハイウェイ建設事業団は、この文鮮明氏の夢

を実現させようと組織された団体であった。

▼国際ハイウェイ建設事業団（東京・渋谷区宇田川町）

久保木修己名誉会長……統一教会前会長、国際勝共連合会長

神山 茂……統一教会会長

梶栗玄太郎理事長……国際勝共連合理事長

▼日韓トンネル研究会（東京・渋谷区宇田川町・事務所は事業団と同じビル内）

松下 正寿名誉会長……世界平和教授アカデミー会長

佐々 保雄会長……北海道大学名誉教授

梶栗玄太郎理事長……（事業団と兼務）

さらに、事業団独自による斜坑掘削工事を担当する極東開発は統一教会が大半の株を握る教会関連企業である。もちろん、この計画が実行に移されたならば国家事業とならざるを得ないだろうが、そのときには国際ハイウェイ建設事業団や傘下企業にもなにがしかの参入の権利が与えられることになる。しかも現在では、この計画の工事費用の積算は、当初の試算をはるかに超えた二〇兆円規模に膨れあがっているらしい。となると、国家としても、おいそれとこのトンネル計画にのるわけにはいかないだろうが、利権の規模が莫大なものとなるだけに、その利権をめぐる争いは熾烈なものとなる。今後の動きが注目される。

見えない戦争

1993年3月14日 第1刷

1993年6月9日 第3刷

著者 新藤 健一

定価はカバーに表示してあります。

発行者 田村 隆英

発行所 情報センター出版局

東京都新宿区四谷2-1

四谷ビル 〒160

電話 東京 (3358)0231

振替 東京 4-46236

©1993 Kenichi Shindo

落丁本・乱丁本はお取替えいたします。

ISBN4-7958-1382-5

印刷 萩原印刷所